

論壇

人間の能力を超える分野も

インターネット上の自動翻訳の機能を試したことがあるだろうか。グーグルなどの検索エンジンは英語で書かれたウェブサイトの内容を自動的に日本語に翻訳してくれる機能がある。機械による自動翻訳なので、難しい文章の翻訳となると時々訳の分からない翻訳をすることがあるが、それでもその翻訳力はいたいしたものである。簡単な文章であれば、パーフェクトな翻訳である。ドコモが提供する自動翻訳のサービスを試したことがあるが、この翻訳のレベルもかなり高いものである。こちらが

東大教授(国際経済学) 伊藤 元重

日本語でしゃべると、電話の向うには英語で聞こえる。その反対も可能だ。英語だけでなく、いろいろな言語が利用可能なようだ。

自動翻訳の場合には、音声認識と自動翻訳の機能の両方を活用することになる。人が話した音声の言葉を文章に変換し、次にそれを外国語に翻訳し、それをさらに音

までは、冗談のつもりでこうした話をしてきたが、最近の技術進歩をみているとこうした話が冗談ではなくなってきたようだ。

人工知能の専門家の話を聞くと、自動翻訳や自動通訳の機能は、あと10年もすれば完成するということのようにだ。完成が10年という

加速する人工知能の進歩

声に変換するのだ。これだけの作業を、コンピュータはあっという間にこなしてしまふ。

学生によくこういう冗談を言うことがあった。一生懸命に英会話勉強するよりも、機械が翻訳しやすい日本語を話す勉強をした方がよいかも知れない、と。少し前

な形では自動翻訳機能を使えることとはすでに述べた通りである。人工知能の進歩のスピードはそれほど速い。翻訳や音声認識の機能は、人工知能が提供するサービス

のほんの一部にすぎない。人工知能が人間の能力を超える分野が増えていくのだ。最近話題になる

のだが、囲碁でもついにプロ棋士がコンピュータに負けてしまった。将棋やチェスではコンピュータの方がすでに強くなっていたが、複雑な囲碁でもついに人間の能力を超えてしまったのだ。

豊かな生活へどう活用

コンピュータが人間の能力を超える分野が広がる世界が、人類にとつて好ましいものなのか恐ろしいものなのか、私のような素人にはよく分からない。ただ、好むと好まざるにかかわらず、私たちはそうした現実に向かい合わなくては行けない。コンピュータ

に仕事や生活を奪われるのではなく、コンピュータを使いこなして生活をより豊かにする必要があるのである。

2000年ほど前の産業革命の時代、機械が自分たちの仕事を奪ってしまつと怒った労働者が、機械を壊す運動を展開した。いわゆる、打ち壊し運動だ。当時の労働者たちは真剣であったろうが、今から考えたら滑稽だ。蒸気機関の動力が活用できるようになったので、労働者は重労働から解放されていったのだ。動力革命がなければ、いまでも多くの人が工場で重い物を運び、ガレー船のそこでオールを漕いでいたはずだ。

情報革命や人工知能は、私たちの仕事や生活を大きく変えることは間違いない。しかし、それを「打ち壊す」ことは無理だろう。人工知能を私たちのより豊かな生活にどう活用していくのかを真剣に考える必要がある。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。